



session 5

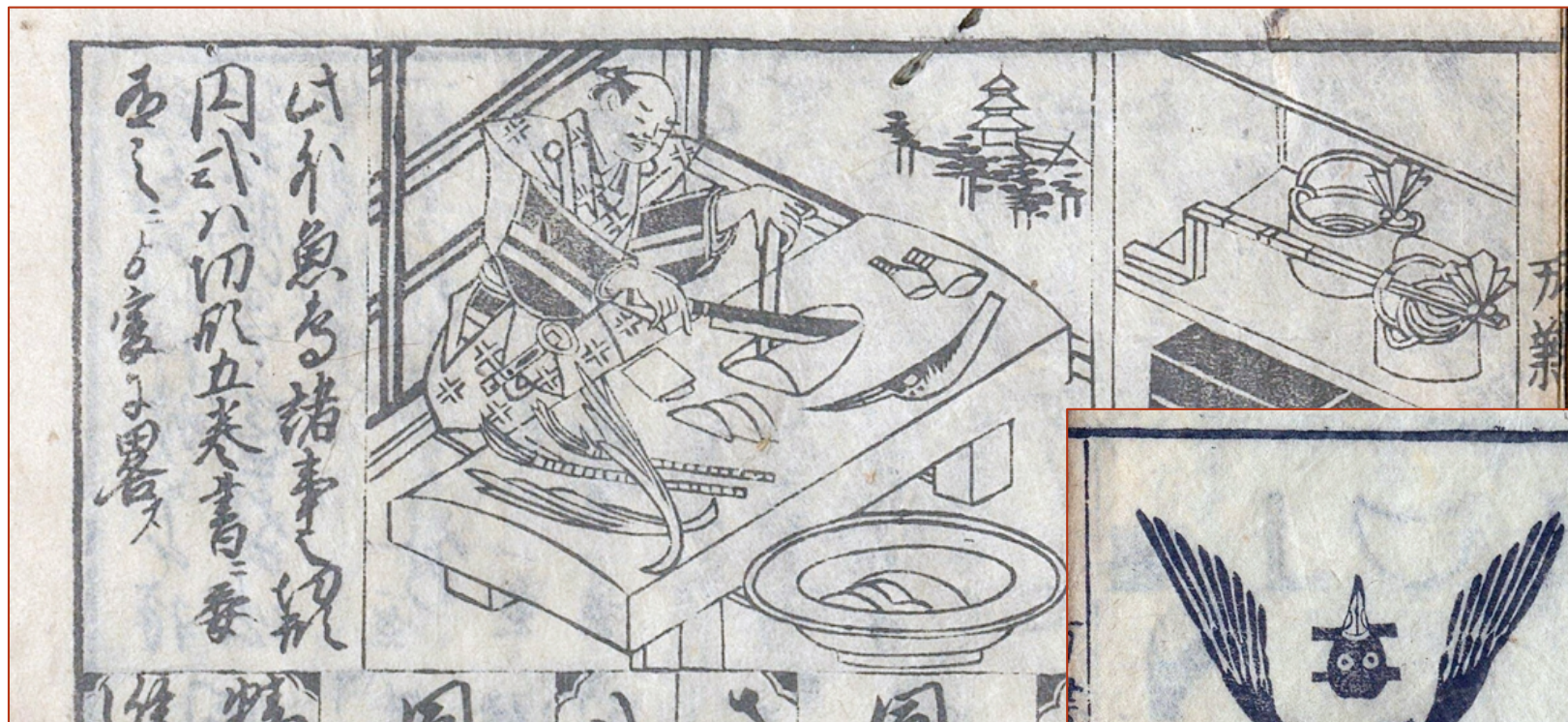
様々な書物に触れる



National Institute of Japanese Literature
National Institutes for the Humanities
Inter-University Research Institute Corporation



絵の効用（可視化することで理解力増進）



死骸を食べ物にする
儀式「包丁式」
食材を瑞祥表現
(おめでたい型) に
切り分ける

鶴も食べていた！



節用料理大全（1711頃）



魚類精進早見献立帳

魚類
精進
早見献立帳



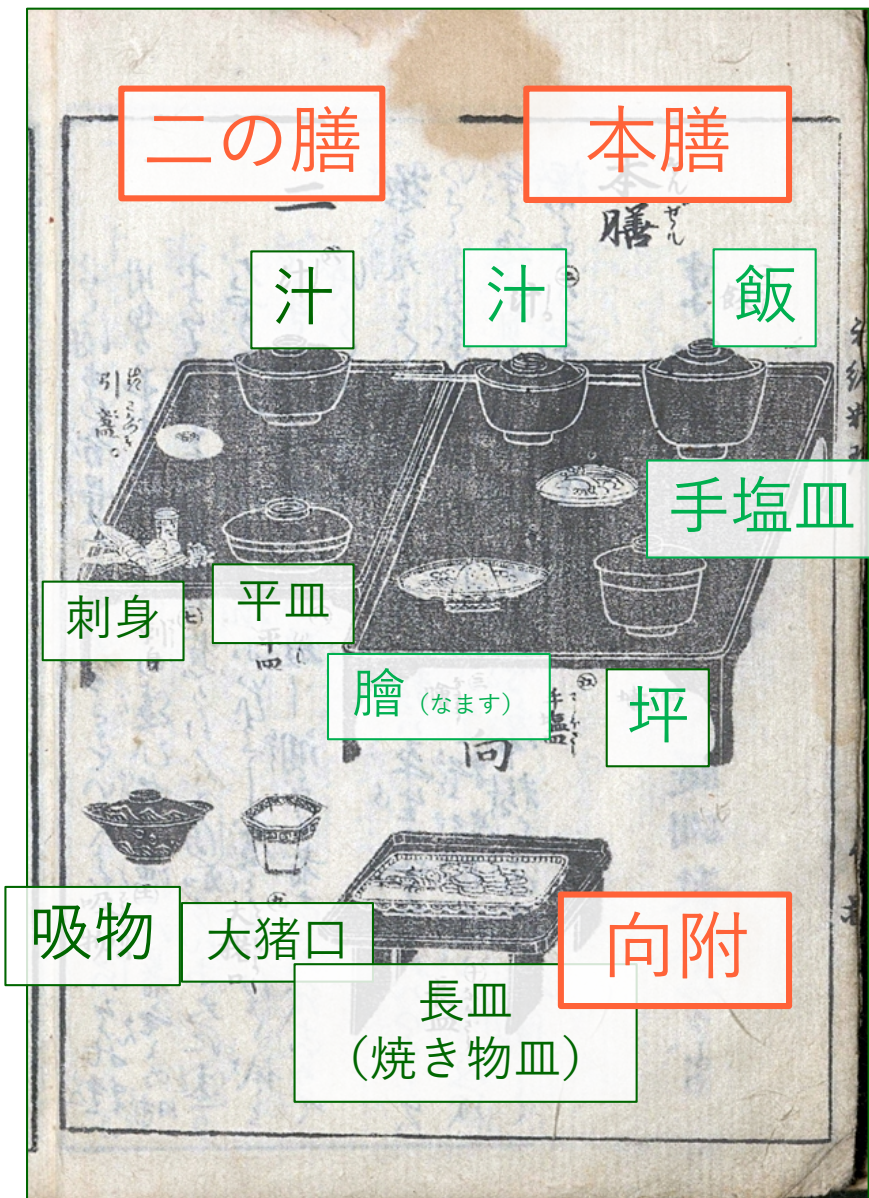
凡例

一 夫貴人言位の内餼より庖丁料理の家えあつて沖亭又かゝの
 将重あより又くこ七又と或ち
 高並平並又又古例は式皆
 家えの秘傳うそ家人の做得る
 半ふあさしけ早見献立帳
 年竟ん氏男の控書あゆの備書

夫上
凡例

〇
〇
〇

かんどふ素人の料理集あつる
 とぞらうまが識者その式は
 と答むる半はるま



本膳料理

5点 (一汁三菜) が基本形

- ①飯 ②汁物 ③手塩皿 (香の物)
- ④膾 (なます：酢の物) ⑤坪 (煮物など)

一汁三菜以上 (二の膳付)
 = 饗応 (接待) の場
 本膳のみ = 日常

「飯」につくのは「汁」
 「酒」につくのは「吸物」



〈末代嘸語〉 掃寄草紙

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00004730>

186554
大正7.3.31

富士川游寄贈

安政戊午初冬刻之



貞齋

末代
嘸語

掃寄草彙

武江

高麗氏藏



富士川游寄贈

耳掃除蔓寄草史序詞

浮屠氏の善行方便の道家深意の寓言あり。狂言綺語も讚佛乘の縁故お基く小冊ハ蓮華道子の戯里まじく賣買くら出さ虚多きとも又退て鑑とい。虚から出る實といふべし。嗚呼禪文の虚誕なる。紫姪が墮獄の前表有りとも。閻魔お舌と抜る位ハ將お點心菜々みて必定屁とも思ひさるべし。一度是と披閱し。お脇くお茶と沸りのら彼悟味莊子の糟と舐く蔓寄草史と号しつらぬ

安政五戊午秋

道墮先生戯題





〈末代噺語〉 掃寄草紙





源氏ひながた



文子も
 うみく
 られは
 かしら
 入れば
 むく
 何と
 白
 と
 小

二条の屋敷

ち
 蘇
 け
 主
 外
 半
 と
 ひ
 悪
 白
 こ
 人

源氏



今様十二月



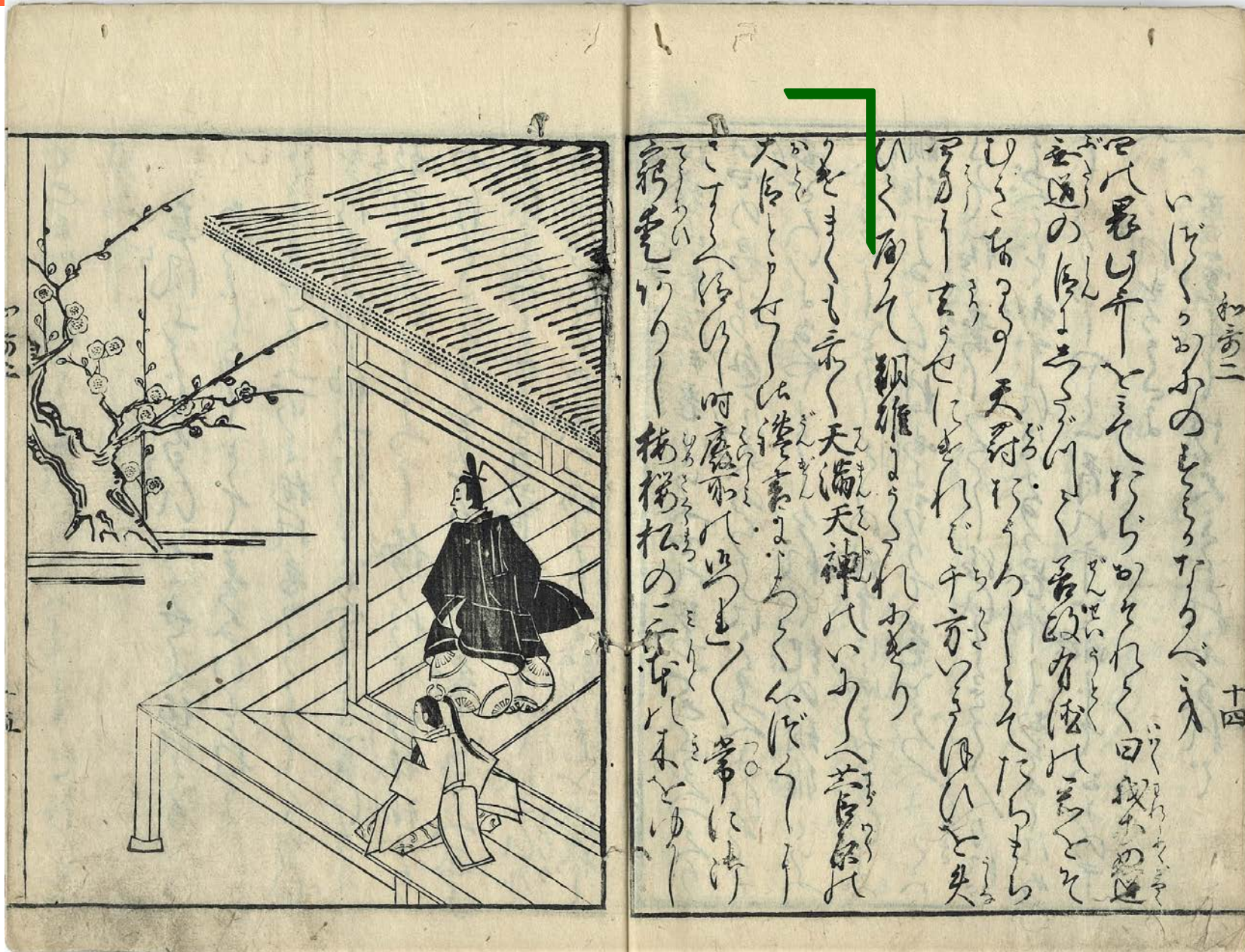


春采百人一首姫鑑





和歌威徳物語





和歌威徳物語

くさむねはくさむねのうらむさむねをほひて
子^こ奇^き

車^こ風^らふも白^はいそをよ梅^う枝^えを
あつらふそをよ梅^う枝^えを

とらふそをよ梅^う枝^えをうらむさむねを
をねも梅^う枝^えをうらむさむねを
秋^{あき}のうらむさむねをうらむさむねを
わけくこらむさむねをうらむさむねを
とらふさむねをうらむさむねを
あつらふさむねをうらむさむねを

名^な付^つりあふらむさむねをうらむさむねを
或^{ある}河^かは梅^う枝^えをうらむさむねを

あつらふさむねをうらむさむねを
うらむさむねをうらむさむねを

とあつらふさむねをうらむさむねを
あつらふさむねをうらむさむねを

先^ま久^く於^お故^こ宅^{たく} 廢^ま籬^{かき}於^お久^く年^{ねん}
康^い鹿^ろ於^お任^に所^{じよ} 魚^い室^{むろ}又^{また}有^あ記^き

あつらふさむねをうらむさむねを
あつらふさむねをうらむさむねを



和歌威徳物語

和歌

十六

扇ちくわしつらびやさんてゆ〜く言まはれ
 系りいん舞はまらる人よ〜ろのやせは
 けりいんとらふいなりそやげまゆらに振ひ
 わとよまねばいしゆくろくそていまは
 りがわ〜まらいん一本ら〜んとおり
 り〜りて四奇

梅とび梅はう〜せの中〜

まじり〜はつ〜り言れ

とつり〜せふ折〜や〜れ氣又帯〜
 ど〜ら〜風〜も〜〜りたれ〜り〜り〜

しゆん〜人〜く〜〜〜く〜〜く〜
 本〜り〜い〜〜〜〜と〜〜と〜〜り〜
 と〜〜〜り〜是〜い〜ふ〜〜〜り〜
 あいの書〜り〜り〜〜り〜れ〜
 へ〜ら〜り〜り〜一〜夜〜白〜〜
 ぶ〜い〜河〜あり〜と〜老〜書〜〜い〜れ〜り〜

和歌

十六



踊形容花競


踊形容花競

一湯齋 豊國画
 柳水亭 権精作

初編十編と二箇年出版

世方の物持たる者情の属とてかひけなき夫の思ふものこれ其の
 称参りなきと相違ふ此の看の能のさかたれ茶のふくろくはの
 豊國主人の画けの仙形も故にわかくくく云のく好事ふらんとは
 世これ知れぬかゝるにいとくく谷巻かき給るるはみ物なまはるる
 参るるの非の貴客あり究極の人物を頭よりさつとさく如くとの物
 と後から後と控わめ稱被るるとの場は交代毎おねのむかひと
 後にお求めらるる並の程依る奉希といふ

板元 甘泉堂發行



○櫻木のつる佳舞臺を本
 かんかまどりの

松看

松東山のあられの本
 花たいすのね橋との

花子

○世方の名も橋ののう
 世の花と舞むのさだ花
 花と花の

萬節堂花門

おとど引の橋あつて東
 見抱ふ

十方山三

○市川の流をささぎ
 波とさくする高し名の
 隈よりわたたは髪を
 とかんとさる川茶ふ

友の惣を

○音相のくた（ま）布の
 そのくくたる巻作を
 わけてあひさ

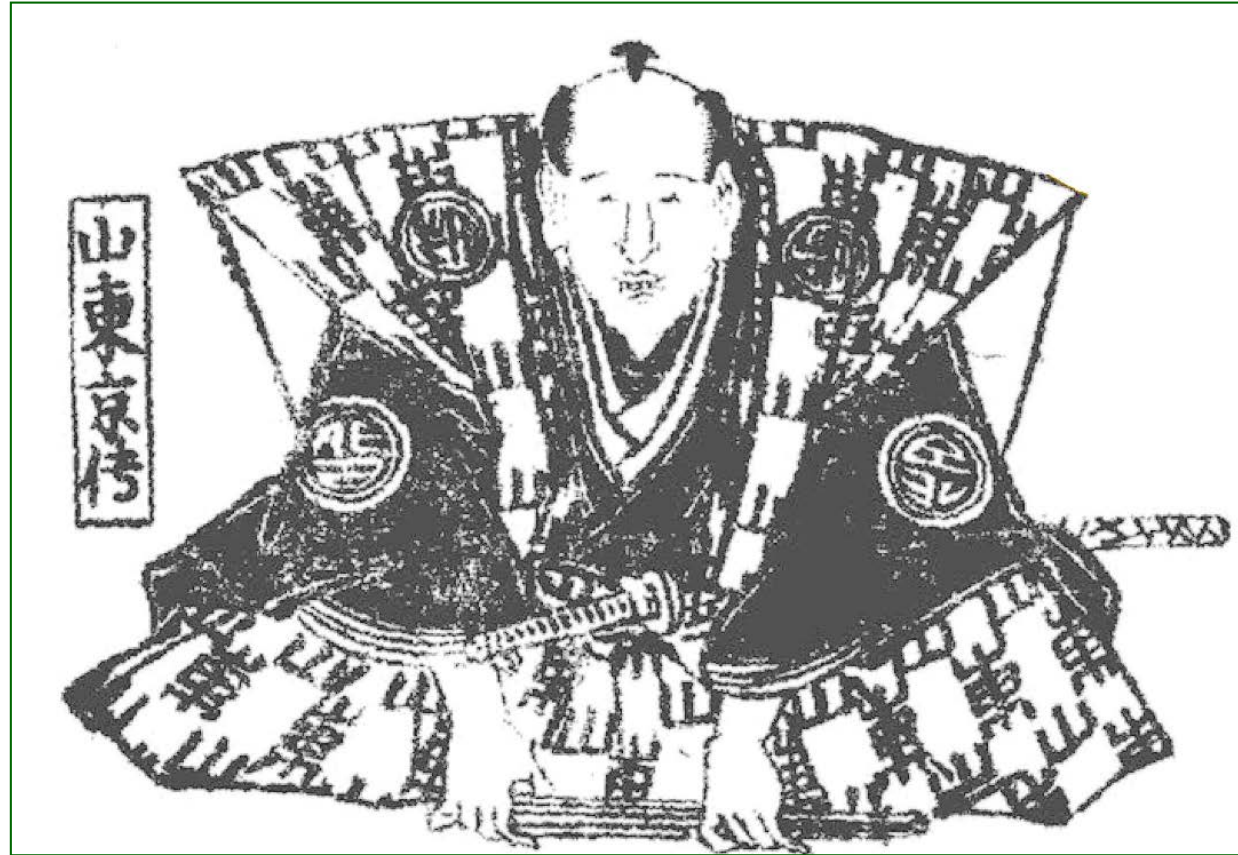
井の巻巻

○巻山ふり巻ふらまひけ
 かく目とあはすのあわた
 巻巻の巻ふらまひ

春日屋の麻

花子の物太





それではこのセッションを終わりにします